

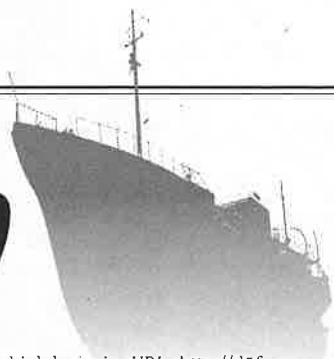
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2007.01.01
No.334

福竜丸だより

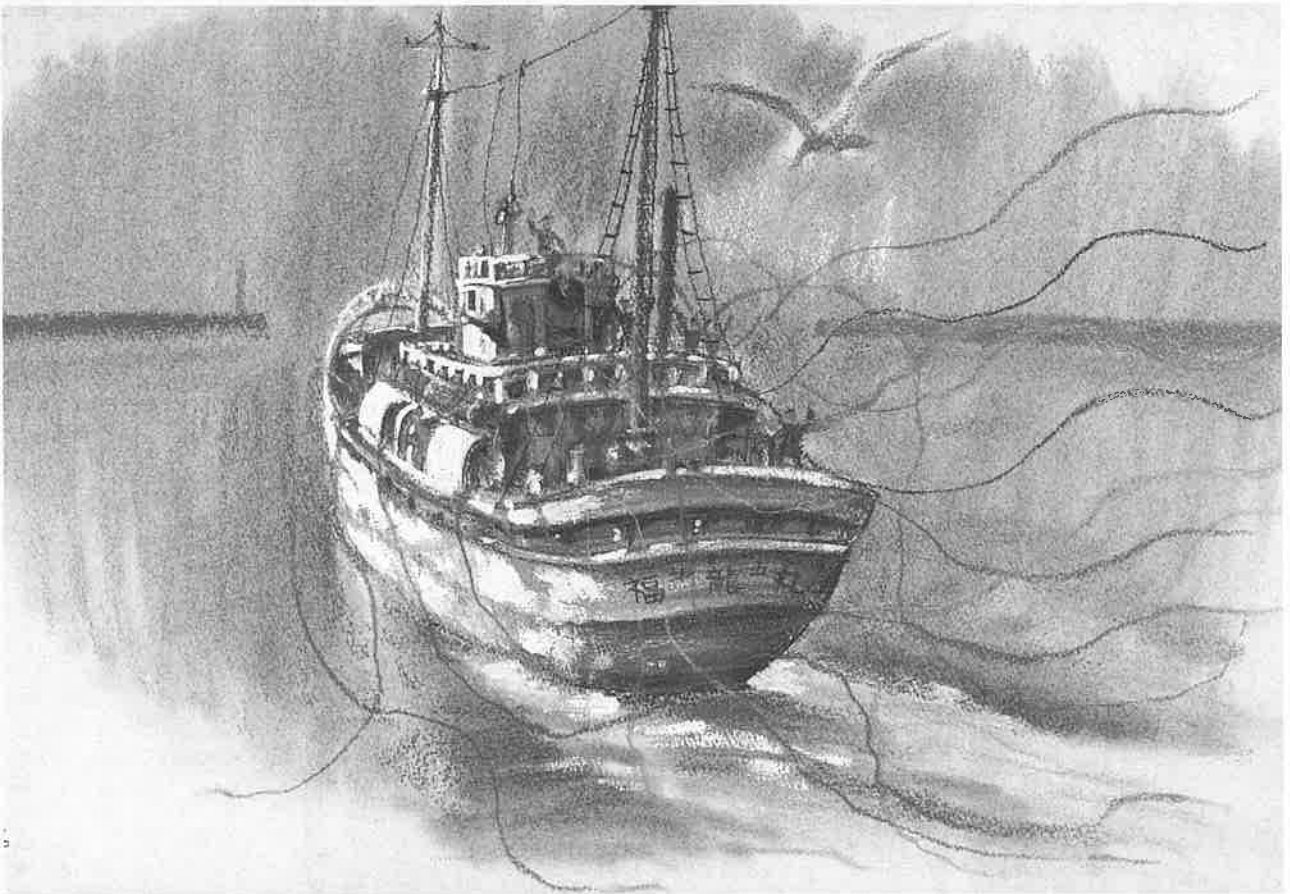
発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



建造 60 年の第五福竜丸とともに核廃絶への航海を

第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎



金沢佑光・画「おーい、まっしろぶね」の作品より（山口勇子・文、童心社刊一九七三年）

明けましておめでとございます。

今年もまた、第五福竜丸とともに原水爆のない未来へ向けての歴史の新しい一ページを踏み出す決意を新たにしているところです。

第五福竜丸は、一九四七年三月二〇日に和歌山県の古座造船所でカツオ漁船「第七事代丸」として進水したと記されています。したがって、本年は第五福竜丸が建造されてちょうど満六〇年になります。

特別な理由がなければ木造船がこんな長い期間にわたって保存されることはまずないでしょう。木造住宅の耐用年数からも察せられます。

第五福竜丸展示館は、第二次世界大戦直後にわが国で造られた木造船を保存・展示している施設としても非常に貴重です。

この船を長く安全に保存していくためには、船の状態を適時にチェックし、必要な修理を行うことは欠かせません。

展示館の設立後、九年経過したとき、一年二ヶ月をかけて船の大修理が行われました。そのときの修理の内容と実際は立派な報告書として出版されました。

第五福竜丸の節目に当たる本年は、船の保存と大修理に直接携わった船大工さんや木造文化財保存の専門家等の協力を得て、木造船の造船技術や、普段は見られない船体内部を紹介する特別展を実施したいと考えております。また、船体やエンジンの保存・補修についての検討作業も始めたいと考えます。

本年も、第五福竜丸展示館と当協会へのご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

バグウォットシユ会議50年、 核兵器廃絶と科学者の役割

沢田昭二

一九五七年七月、第一回「科学と世界に関するバグウォットシユ会議」がカナダの漁村バグウォットシユ村で開かれて今年には五〇年を迎えます。

会議を呼びかけたラッセル・アインシュタイン宣言

この会議は、一九五五年に発表されたラッセル・アインシュタイン宣言（R E宣言）の呼びかけに、米ソを含む一〇カ国二三人の科学者が参加して開かれました。日本からは物理学者の湯川秀樹、朝永振一郎、小川岩雄の三博士が参加しました。

核戦争の危機を乗り越える

R E宣言が発表された一九五〇年代の半ばは、米ソが水爆開発を競っていて、核戦争の危険性がたかまっています。R E宣言の署名者の一人湯川博士（今年の一月一人の一人湯川博士（今年の一月が誕生百年に当たりま）は「全体的破滅を避ける

とが明らかになり、これが欧米の科学者にも伝わりました。

水爆の危険性を知った英国の哲学者のバートランド・ラッセルは、原爆開発の進言を痛恨の思いで反省していた物理学者アインシュタインと相談し、R E宣言を発表して世界の科学者に呼びかけたのです。

原爆被爆者の集団訴訟にも

つながるR E宣言

R E宣言は「もし多数の水素爆弾が使用されるならば、全面的な死滅が起こる心配がある。―瞬間的に死ぬのはほんのわずかだが、多数のものはじりじりと病気の苦しみをなめ、肉体は崩壊していく。―」と放射性降下物による内部被ばくの慢性的な危険性を指摘しています。この内部被ばくの問題は、いま取り組まれている被爆者の原爆症認定集団訴訟の中心争点になっています。また、ビキニ水爆実験によって被災した第五福竜丸乗組員や、一千隻にのぼる漁船などで被ばくした人々を政府が救済すべきことも関係しています。

核抑止論を批判し続ける

最初の会議の成功でバグウォットシユ会議は引き続き開かれるようになり、この五〇年間で五六回、その他に小規模のシンポジウムや研究会を世界の各地で開いてきました。

ところで、一九六〇年代には、核兵器廃絶は困難だから、科学者は核兵器のバランスで平和を維持する方法を見出すべきだという「核抑止論」がバグウォットシユ会議の議論を支配するようになりました。

これに対し、湯川、朝永、坂田昌一の三博士は、バグウォットシユ会議の日本版「科学者京都会議」を立ち上げて、核抑止論を批判し続けました。

一九七五年に日本で初めてバグウォットシユ・シンポジウムが開かれた時、被爆直後の映画を参加者全員に見せたことで、核抑止論を批判した「湯川・朝永宣言」に署名してもらうことができました。しかし、「核抑止論」はソ連が崩壊するまで長く続きました。

核抑止論から抜け出す

一九九五年広島で開かれたバグウォットシユ会議では原爆資料館を全参加者に見学して

もらい、初めて核抑止論を批判する声明を発表することができました。その年バグウォットシユ会議と会長のロートブラット博士がノーベル平和賞を受賞しました。

二〇〇五年に再び広島で会議が開かれ、今日ではバグウォットシユ会議は核抑止論から完全に脱却しています。

非核の保証は

戦争のない世界

R E宣言は、核兵器禁止条約を維持するために戦争そのものを廃棄する必要性を指摘しています。最近の会議では、戦争放棄を宣言した日本国憲法と同じ立場から、R E宣言をさらに押し進めて一切の戦争のための体制の廃止を議論するようになっていきます。

バグウォットシユ会議の五〇年を振り返って、核兵器のない世界、戦争のない世界を実現する上で、日本の役割、中でも科学者の役割は大きいと思います。これを若い科学者に継承することが課題です。

（さわだしょうじ／名古屋大学名誉教授・物理学／広島で被爆）

還暦を迎える第五福竜丸 木造船60年のあゆみ

食糧難の時代に活躍した
木造船

第五福竜丸の前身、カツオ漁船第七事代丸が建造されたのは、第二次世界大戦敗戦後の一九四七年三月でした。

長かった戦争がようやく終わり、しかし大変な食糧難の時代、たくさん漁船が造られます。敗戦国日本はGHQの規制で一〇〇トン未満の木造船しか造れないなか福竜丸

丸（事代丸）と同じような漁船がたくさん造られます。

ビキニ水爆実験に被災した一九五四年には八〇〇隻の木造マグロ・カツオ船があったようですが、現存するのは第五福竜丸ただ一隻です。

船は和歌山県古座造船所（いまの串本町、社主は植村直太郎）で、設計と棟梁の南藤藤夫とともに総勢八人の船大工が半年がかりでした。

建造中の第七事代丸



船体肋骨模型・木村九一氏寄贈



焼津の漁船第五福竜丸



はやぶさ丸の練習航海



船主は、神奈川県三崎漁港の市川正市（のちの事代漁業社長）でした。

一〇〇トン未満の木船

船の材料の調達も容易ではなく、紀州の木材は大阪の住宅建設に優先的にまわされ、事代丸の材料は三重県七里御浜の松林から約一〇〇本を切り出して牛車で運び（約四〇キロの距離）、特に竜骨（キール）には縁起をかついでお寺（東正寺）の松を切り出して使ったといわれています。

事代丸の建造費は百万円。造っていくと一〇〇トンを超えて一四〇トンある、検査官に頼みこんで（お金を渡して）

九九トンでとおしてもらったというエピソードも残っています（実際登録書類は総トン数九九・〇九となっている）。

カツオ船からマグロ船へ

カツオ船事代丸は、四年続けて優秀な漁獲を上げましたが、近海の漁が振るわなくなりマグロ船に改修されました。遠洋漁業が解禁になったのは五二年四月、一年に清水の金指造船所で改修、船先は切り取られ、魚倉も四倉に作り変えられました。

さらに五三年五月、船は静岡県焼津港の西川角市に買い取られて、第五福竜丸と命名されたのでした。

福竜丸は、一回の航海期間は約一月半、五回目の航海で、マーシャル諸島のビキニ環礁でのアメリカの水爆実験に遭遇、「死の灰」をかぶり、三月一四日に焼津に帰港したのでした。それ以後は再び遠洋マグロ漁船として操業することはありませんでした。

アメリカが福竜丸を沈める第五福竜丸の被災が日本中の大事件となるなかで、船体についてアメリカは汚染を除去して沈めると日本政府に提唱しますが、科学者の強い主張で文部省が買い取り、東京水産大学で残留放射能検査を行いました。

五六年五月、伊勢市大湊の強力造船所で水産大学の練習船「はやぶさ丸」に改造され、約九年間使われたのでした。

一九六七年春、老朽化のため廃船処分、やがて夢の島に放置され、保存運動によって、一九七六年六月、都立第五福竜丸展示館が開館し、船体は永久保存されたのです。

（本稿は徳田純宏著『熊野からの手紙』ノア出版1984を参考にしました）

協会が平和協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞

市民の寄附で運営され市民が選ぶ反核・平和や人権・協同のとりくみ、出版ジャーナリズム活動に贈られる同基金の2006年の奨励賞に財団法人第五福竜丸平和協会が選ばれました。

今年は51点のノミネート作品、活動のなかから大賞・西谷文和さん（イラクに関する報道）、奨励賞に浦島悦子さん（名護・辺野古のたたかい）、田村洋三さん（ざわわざわの沖縄戦）、東京新聞社会部（あの戦争を伝えたい）、蓮ユニバース（映画「蟻の兵隊」）、特別賞に吉永小百合さん（原爆詩朗読活動）などに贈られました。

第五福竜丸平和協会の受賞理由は、30年を迎えた展示館の運営をつうじて、ビキニ被災事件の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた積極的活動の継続、『写真でたどる第五福竜丸』『展

示館30年のあゆみ』の刊行などの多面的な広報活動が評価されました。

12月8日、日本青年館での授賞式には、川崎昭一郎会長をはじめ清水幹雄監事、山村茂雄理事、安田和也事務局長が出席し、同基金の竹本徳成代表委員から賞状と盾が授与されました。

川崎会長は挨拶のなかで、原水爆禁止を願う市民の手で守られ市民の支援で展示館が活用されてきた。ボランティアの会がビキニ事件を若い世代に伝えている。大勢の方がたのお力添えで発展させていきたい、と述べました。



愛吉さんの「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」の碑から取られた拓本が飾られています。

来館者のアンケートより

◇国が弱いと国民を守れないと思う心の弱さを強く感じました。私たちがしっかりと考えて原水爆や軍力がなくても外国に対してきちんと物申す方を選ばないと、被害者に対して申し訳ない。（埼玉 53歳 男）

◇最近の政治家は平気で核武装の議論をしてなぜ悪い!といえるようになった日本の未来を危惧しています。そんな時代だからこそ第五福竜丸事件を学習するべきであると思いました。久保山さんのご家族の涙の写真は本当に心にひびきました。（鳥取 42歳 男）

◇高校の講師をしております。来週から授業で第五福竜丸を題材にした

“Witness to the Ocean” をやります。先月は長崎と広島を修学旅行で訪れました。21世紀を生きる若者たちが、20世紀の負の遺産を知ることにより、平和の意味を少しでも届けられたらと思っております。（神奈川 57歳 女）

◇歴史における負の遺産は未来への財産となるものと強く感じました。保存運動をされてきた方たち、そして現在も続けている方たちに敬意を表します。（東京 34歳 女）

ボランティアの会総会・学習会

12月17日、ボランティアの会は総会と学習会を開きました。総会では、今年の活動をふりかえりつつ、小学生対象の絵、作文などの募集や子ども達と平和絵本を読むとりくみへの希望が出されました。

学習会の講師は東京文化財研究所の中山俊介さん。文化財保護の現状と福竜丸船体・エンジン保存についてお話を伺いました。中山さんは近代文化遺産研究室長で、多種多様な産業遺産を含む近代遺産を対象に研究・活動されています。

お話では、社会における文化財の位置づけが低いこと、観光化しないと保存を維持できない現状などを指摘され、国内外の文化財施設について紹介しました。

また保存にあたり「どの時点をオリジナルと考えるか」「歴史を支えてきた証人をありのままの姿で次世代に引き継ぐ責任」についての視点と姿勢を解説。多様な材質が使用されている近代遺産の特質から、多分野にわたる職種の人が関わって初めて修復、保存ができること、保存の形態についても見学者にも理解してもらおう展示について指摘しました。講演後、参加者全員でエンジンの現状についても観察し懇談しました。

多聞寺にひびく

ラッキー・ドラゴン・クインテット

20年以上にわり続けられている多聞寺（墨田区）の「核兵器廃絶祈願いのちと平和コンサート」で、林光さん作曲の「ラッキー・ドラゴン・クインテット」が演奏されました。これは映画『第五福竜丸』（新藤兼人監督）の音楽を、今年4月に行われた第五福竜丸展示館開館30年記念コンサートのために、室内楽用に編曲されたものです。

この日のテーマは「竜宮城のモーツァルト」。4月のコンサートでも司会を務めた岸田正博住職（協会評議員）の先導で参加者全員による読経の後、日本フィルのメンバーとピアニストの寺嶋陸也さんによるモーツァルトが奏でられました。多聞寺本堂には久保山